

消費者の  
 「つかう責任」

今月のテーマ  
 12 持続可能な消費生活 (ゴール12)  
 つくる責任  
 つかう責任

5月は消費者月間です。消費者庁では、消費者被害の防止に向けて毎年テーマを設け、皆さんに消費者問題についての理解を深めてもらうことを呼び掛けています。ことしのテーマは「デジタル時代に求められる消費者力とは」。デジタル化が進み、生活が豊かで便利になったと感じる一方で、膨大な情報の中から正しい情報を選んでいるのか、生活の中で適切な対応ができていないのか、不安な方も多いと思います。さらに、正しい情報を選べず、うまく対応できないことで、被害に遭ってしまっている方もあります。

例えば、インターネットのショッピングサイトで購入したブランド品が、偽物だったにもかかわらず支払った代金を返金してもらえなかった、という話を耳にしたことがありませんか。経済的な不安等から、オンラインサロンなどで勧められた不確かな副業を契約し、貯蓄を失ったり、借金を負ったりした方もいます。また、誤った情報を信じた行動

が、社会の混乱を招くこともあります。コロナ禍の折、マスクや消毒用アルコールが手に入らなくなるといったことで、買い占めや不当な高額転売が行われたことは記憶に新しいところです。災害や危機のときこそ、情報の真偽を見極め、冷静に行動する力が大切です。このように、デジタル社会においては、デジタルサービスの仕組みやリスクを理解すること、情報をうのみにせずしっかり確認する力、正しい情報を発信する力を養うことは欠かせません。

これまでの消費者に必要とされた「気付け・断る・相談する」力とともに、時代に合った「消費者力」を身に付けることで、消費者として「つかう責任」を果たしていけるのではないのでしょうか。



お問い合わせ「消費生活センター」  
 ☎823-9433

撮りだち  
 トピックス  
 photo  
 News

まちの出来事を写真でお届け



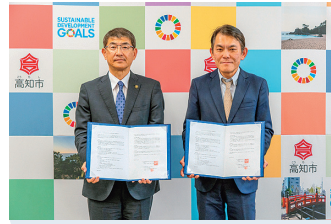
3月3日(日)  
 浦戸湾・七河川  
 一斉清掃

浦戸湾と市内を流れる7つの河川の環境保全のための清掃に、約4,000人の市民が参加。可燃・不燃ごみ合わせて約45トン回収しました。



3月3日(日)  
 高知市スポーツ賞  
 表彰式

各競技会で優秀な成績を収めた選手・団体および指導者を表彰しました。今年度は29団体と113人の個人が表彰されました。



3月4日(月)  
 デジタルの活用に関する連携協定を締結

市LINE公式アカウントの登録者増加への取り組みなど、デジタルを活用した情報発信力向上を図ることを目的に、ソフトバンク(株)と連携協定を締結しました。



3月5日(火)  
 黄色いワッペンとランドセルカバーが贈呈されました

この春小学校へ入学する子どもたちの交通安全を願い、贈呈式が行われました。当日は、新入学児童を代表して鏡川保育園の園児10人が出席しました。



3月15日(金)  
 鏡川流域関係人口創出事業に対する寄付への市長表彰

(株)なぎのき製菓への表彰状授与式を行いました。なお、同事業には昨年度に引き続き、あいおいニッセイ同和損害保険(株)高知支店からも寄付をいただきました。



3月27日(水)  
 防災用車両が寄贈されました

旭食品(株)創業100周年記念事業として、悪路に強く、災害時に活躍する車両2台を寄贈いただき、そのうち1台の納車式を行いました。

2024  
 3.1  
 [金]  
 3.31  
 [日]

詳しくは  
 Facebookで▶



Work Of Kochi City  
 市役所の推しゴト!

産業政策課編

こんな仕事をしている課です

中小企業への支援

企業誘致・立地の促進

職業相談・紹介(無料職業紹介所)



▲産業政策課の皆さん

その他の業務内容は  
 こちらから



市役所のお仕事を紹介します



就職・転職をサポート！高知市無料職業紹介所 /

求人情報などの提供をはじめ、企業と求職者の橋渡しをしたり、就職に関する悩み事の相談を受けたりしています。



■就職に関するお悩みはありませんか

「就職活動が思うように進まない」「自分に向いている仕事が見つからない」など、就職に対する不安や悩みはありませんか。専任の就労支援員が希望に応じた求人情報の提供、履歴書等の書き方や面接時のポイントなどをアドバイスします。仕事を探している本人やご家族の方も利用できます。相談は完全予約制です。事前に産業政策課までお問い合わせください。

詳しくはこちら▶



相談は1回1時間程度、個室で相談できます。プライバシーも守られ、安心です。

【問い合わせ】産業政策課 ☎823-9456

歴史万華鏡

(138回)

高知の美術展の草分け  
 「観工場」での土佐美術協会展

県立美術館  
 学芸員 中谷 有里

ことしは土佐を代表する絵師・河田小龍の生誕二百周年。幕末維新の激動期をつぶさに目撃したこの絵師が、高知の美術展覧会の始まりを見守っていたことは、あまり知られていない。高知における美術展覧会の始まりは、明治二十九(一八九六)年開催の土佐美術協会展までさかのぼる(それ以前、絵師たちが活躍する公開の場といえは得月楼など料亭で開かれる書画会であった)。土佐美術協会は、明治二十八(一八九五)年に高知市で発足された美術団体で、後の土陽美術会高知支部の前身ともいえる、おそらく高知最初の公募展組織だ。同年十一月二十八日の「土陽新聞」に第一回展覧会の会則が掲載され、翌年一月に展覧会を実施。掲載元である新聞社も、この展覧会の設立が果たす社会的意義を大いに歓迎した。

ちなみに、この展覧会の会場となったのが「観工場」である。観工場は明治前期、殖産興業の機運が高まる中、全国各地に建てられた商業施設だ。高知では今のひろめ市場南の四国銀行の一角にあった旧兵営の建物を使用して明治十八(一八八五)年に開業した。物品陳列所が置かれて、いろいろな商品が売買されたほか、兵営の建築が大きなため、製糸場が設けられたり、高知市庁舎や市会(現市議会)の議事堂としても使用されたりと、さまざまな用途で使われたという。現在の百貨店と多目的文化施設が合わさったようなイメージだろうか。今も商店街としてにぎわいを見せるこの区域で、高知の美術展は歩み始めたのである。



観工場の跡地付近(本町二丁目)